

新型コロナウイルスは高齢者において高い重症化率、死亡率がみられ、介護施設などの施設内での感染拡大を防ぐことが重要な課題となっている。新型コロナウイルスの特徴は、無症状でもウイルス排出量の多い感染者から気づかないうちに感染が広がることであり、世田谷区では介護施設などにおいて、無症状でも定期的検査を進め、さらに感染者の発見された場合には、頻度を上げて検査を繰り返す社会的検査を進め、3月22日までで1万5千人を超える検査を行い、無症状の感染者が10名以上いた施設の発見、定期的検査を行った施設でクラスター発生の少ない傾向、無症状者でもウイルスの排出量の多い高齢者の存在などを確認してきた。

これらの結果は、なるべく多くの介護施設などにおいて社会的検査を行うことを推奨することが望ましいことを示している。新型コロナウイルスの感染の広がり、高齢者と接する介護士、職員に大きな負担となっており、介護士の退職希望者の増加など、施設運営の問題が起こっている。定期的検査により感染の広がりがより正確にモニタリングされることは職員の「安全、安心」をまし、前向きな効果が見られることが報告されている。

東京大学では世田谷区及び世田谷区以外の介護施設などで社会的検査の実証試験を行ない、その際の留意点として、次の6点を指摘する。

(1) 検査の実施を民間検査機関を活用することにより、検査の絶対数を増やし、保健所や医療機関の負担を増やさず、むしろ減らす方向でおこなうこと

(2) 陽性者が確認された場合に迅速に医療機関での診断、治療に移行す体制を作ること

(3) 介護施設における検査、検体の収集において、看護師、医師、検査技師などを派遣し、介護施設関係者は、感染性検体の取り扱いをしなくてもいい体制を取ること、

(4) 個人情報保護の仕組みを整備すること

(5) 検査は信頼できる検査機関で、信頼性の高い測定方法で行い、Ct値などの定量的記録を残し、科学的検討に生かせる様にする

(6) 直近の課題として、陽性検体については変異型のPCR検査での確認ができる検査機関で行うことが望ましい。

世田谷区における社会的検査においては、実績をもつ民間検査機関、世田谷区内の医療機関と連携し、施設に看護師を派遣して、検体の採取、管理を行うこと、精度の高い自動化機械で定量的に検査を行いカットオフなどの基準が整備され、変異型のPCR検査も可能な検査機関である、など上記の留意点を満たしている。

また新型コロナウイルスは感染の波が繰り返す特徴があり、世田谷区としての検査能力が整備されていることにより波の上昇期に行政検査能力が不足するときに、区の判断で、社会的検査を行政検査に回すことで保健所や医療機関の負担軽減にも貢献している。

一方、感染の波が引いていき陽性者が減った時期においても、経時的データを蓄積し、次の変異型ウイルスの進入を防ぐモニタリングの意義が大きい。

以上の点を踏まえて、世田谷区においては、介護施設などでの定期的検査を、「安全・安心」のために積極的に推奨することが望ましいと考えられる。